

「英語」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

「聞くこと」、「読むこと」及び「書くこと」の三つの領域について、英語を理解し、英語で表現するなどのコミュニケーション能力と、コミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的事項の理解力をみることをねらいとした。

①では、英語による話しかけに対して適切に応答する能力、②では英語での対話を聞き、その内容を的確に聞き取る能力、③では、まとまった英文を聞き、その概要や要点を適切に理解する能力をみようとした。

④では、コミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現、語法など、言語に関する知識・理解をみようとした。

⑤では、与えられた英語で語順正しく英文を構成することにより、言語に関する知識・理解と表現する能力をみようとした。

⑥では、ペンパルに当てた手紙を素材として、与えられた情報を整理し、的確に文章の概要や要点を読み取る能力をみようとした。

⑦では、短編の物語文を素材として、概要や要点を把握し、英問の内容を理解し、適切に応答する能力をみようとした。

2 結果と考察

① 英語による話しかけを聞き、それに対する応答として最も適切なものを選ばせることによって、英語を正確に聞き取り、適切に応答する能力をみる問題。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
①	ア	70.6	28.8	0.6	「1」 13.0%、「2」 8.3%、「4」 7.5%
	イ	65.8	33.4	0.9	「2」 7.8%、「3」 13.6%、「4」 12.0%
	ウ	34.2	65.3	0.6	「1」 11.7%、「2」 44.8%、「3」 8.8%

【考察】大問1の正答率は56.9%（昨年度は49.2%）で昨年度を上回っている。問題ア、イでは、内容を十分に理解できていない。単語の意味や決まった表現の理解が不十分である。問題ウは正答率が低かった。"Do you mind if I open the window?"という問いに対し、"Yes, I can."という誤答が最も多い。基本的な表現や応答を対話練習の中で身に付けさせる必要がある。

② 英語による対話文と問いかけを聞き、それに対する応答として最も適切な絵を選ばせることによって、英語を正確に聞き取る能力をみる問題。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
②	エ	95.1	4.7	0.2	「1」 1.3%、「2」 2.4%、「4」 1.0%
	オ	86.5	12.9	0.4	「1」 3.2%、「2」 1.9%、「3」 7.8%
	カ	80.0	19.6	0.5	「1」 3.0%、「3」 2.6%、「4」 14.0%

【考察】大問2の正答率は87.2%（昨年度は54.3%）で昨年度を上回っている。問題エでは、

内容を正確に理解できているようである。しかし問題オやカのように、聞き取る内容が複雑になってくると若干正答率が下がっている。特に問題カでは、"Sealion"と"Lion"の意味を取り間違えた誤答があった。聞き取った文章を正確に理解し、素早く判断できる能力を身に付けさせるとともに、基本語彙の定着を図る必要がある。

- ③ まとまった英文と問いかけを聞き、要点を正しく理解する能力と英語での問いかけに対して適切に応答するコミュニケーション能力をみる問題。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
③	キ	77.6	21.8	0.6	「1」 6.5 % , 「2」 6.8 % , 「3」 8.5 %
	ク	70.1	29.3	0.6	「1」 9.2 % , 「3」 11.7 % , 「4」 8.4 %
	ケ	79.8	19.4	0.8	「2」 8.3 % , 「3」 7.2 % , 「4」 3.9 %
	コ	57.2	42.3	0.6	「1」 11.7 % , 「2」 18.5 % , 「4」 12.1 %

【考察】大問3の正答率は71.2%（昨年度は42.9%）で昨年度を上回っている。文章を聞き取り、要点を理解しているかどうかを問う問題であるが、問題キ、ク、ケ、では正答率が70%を超えており、英文の内容をおおむね把握できていると考えられる。問題コでは、疑問詞"when"により"At ten o'clock"と答える誤答が多かった。リスニングの練習を積み重ねるとともに、聞き取った状況を的確に把握する力を身に付けさせる必要がある。

- ④ コミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現、語法事項など、言語に関する知識・理解をみる問題。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
④	サ	43.4	56.0	0.7	「1」 14.3 % , 「2」 32.3 % , 「4」 9.4 %
	シ	47.2	52.2	0.6	「1」 4.5 % , 「3」 20.9 % , 「4」 26.8 %
	ス	42.8	56.4	0.8	「2」 31.0 % , 「3」 14.3 % , 「4」 11.1 %
	セ	57.6	41.5	0.9	「1」 5.7 % , 「2」 23.3 % , 「3」 12.5 %
	ソ	52.7	46.5	0.8	「1」 16.5 % , 「2」 22.9 % , 「3」 7.1 %
	タ	22.1	77.2	0.8	「2」 7.3 % , 「3」 65.2 % , 「4」 4.7 %
	チ	68.9	30.3	0.8	「1」 10.7 % , 「2」 11.3 % , 「4」 8.3 %
	ツ	35.5	63.7	0.8	「1」 50.2 % , 「3」 7.0 % , 「4」 6.5 %
	テ	78.6	20.7	0.7	「1」 4.8 % , 「3」 10.6 % , 「4」 5.3 %
	ト	36.0	63.4	0.6	「1」 14.5 % , 「2」 29.9 % , 「4」 19.0 %
	ナ	58.7	40.4	0.8	「1」 14.6 % , 「2」 8.1 % , 「3」 17.7 %
	ニ	47.2	51.8	1.0	「1」 7.9 % , 「2」 20.2 % , 「4」 23.7 %
	ヌ	62.3	36.8	0.8	「2」 18.2 % , 「3」 8.6 % , 「4」 10.0 %
	ネ	56.8	42.1	1.1	「1」 22.6 % , 「3」 10.8 % , 「4」 8.7 %
ノ	32.2	66.5	1.4	「1」 12.3 % , 「2」 23.7 % , 「3」 30.5 %	

【考察】大問4の正答率は49.5%（昨年度は47.0%）で昨年度を若干上回っている。正答率50%を下回った問題は15問中8問であった。（昨年度は9問）。その中でも、タ、ツ、ト、ノが特に低かった。問題タでは、priceに使える形容詞を問う問題だが、expensiveを選ぶ誤答が目立った。問題ツでは、前後関係からandを選択する問題だが、butを選ぶものが多かった。接続詞の個別の意味だけでなく、用例をとおして用法を身に付けさせることが必要であ

る。問題トは、過去分詞 taken を使った句の後置修飾を問う問題だったが、動詞の過去形を選ぶものが目立った。分詞を使った修飾をしっかりと身に付けさせたい。問題ノは、倍数表現を問う問題だったが、倍数表現に慣れていないようである。コミュニケーションでは使用頻度が比較的高い表現であるから、as を使った同等比較表現とともに、身に付けさせたいものである。

全般的に会話でよく用いられる表現や語句の問題に関しては正答率が高かったが、文法や語法の問題に関しては、定着が不十分である。言語使用においては文法等の知識も重要であり、様々な機会を捉えて練習させ、身に付けさせたい。

- ⑤ 与えられた英語で語順正しく英文を構成することにより、言語に関する知識・理解と表現する能力をみる問題。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
⑤	ハ	56.4	42.2	1.4	「2」 28.4 % , 「3」 9.4 % , 「4」 4.4 %
	ヒ	69.2	29.8	1.0	「1」 13.2 % , 「2」 7.2 % , 「3」 9.4 %
	フ	42.8	55.5	1.7	「2」 19.9 % , 「3」 15.6 % , 「4」 20.0 %
	ヘ	51.0	47.0	2.0	「1」 19.7 % , 「3」 12.9 % , 「4」 14.4 %
	ホ	74.0	24.8	1.2	「1」 5.6 % , 「2」 8.3 % , 「3」 10.9 %

【考察】大問5の正答率は58.7%（昨年度は59.8%）で昨年度とほぼ同様である。問題ヒについては、昨年度正答率の低かった関係代名詞の問題であるが、今年度はおおむねできていた。問題フのみ正答率が50%を下回っているが、偏った誤答例はなく、It takes 時間 to ~ の構文が十分定着していないようである。

- ⑥ 英語の手紙文を読んで、書かれている概要・要点を理解し、書き手の意向などを読み取る能力をみる問題。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
⑥	マ	75.7	22.9	1.3	「1」 7.0 % , 「2」 8.8 % , 「3」 7.1 %
	ミ	48.2	50.6	1.2	「1」 26.0 % , 「2」 18.1 % , 「4」 6.5 %
	ム	52.5	46.0	1.5	「1」 9.4 % , 「2」 33.1 % , 「4」 3.5 %
	メ	80.7	18.0	1.4	「2」 6.3 % , 「3」 5.9 % , 「4」 5.8 %
	モ	66.6	31.6	1.8	「1」 4.4 % , 「3」 11.7 % , 「4」 15.5 %

【考察】大問6の正答率は64.8%（昨年度は67.8%）で昨年度を若干下回っている。

正答率の一番低かった問題ミでは、内容が正反対である「1」の誤答が目立ち、"I don't communicate in English very often." の意味を理解していないと思われる。また、同様に正答率の低かった問題ムでは、「2」の誤答が多く、"I speak Spanish."からスペイン人と判断したものと思われる。また、問題モでは、本文中には触れられていない「4」の誤答が目立った。

誤答の傾向から、知っている単語から意味を類推するにとどまり、英文の意味を正確に捉えていないようである。一文ごとの意味を捉えながら話の展開を整理し、読み進めていく力を身に付けさせたい。

- ⑦ 英語の物語文及び質問文を読み、書かれている概要・要点を理解し、書き手の意向などを読み取る能力をみる問題。

問題番号	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
7	ヤ	55.0	42.3	2.7	「1」 9.0 % , 「3」 16.5 % , 「4」 16.8 %
	ユ	54.8	42.2	3.0	「2」 12.4 % , 「3」 17.0 % , 「4」 12.8 %
	ヨ	48.7	47.9	3.5	「1」 12.0 % , 「2」 23.8 % , 「4」 12.1 %
	ラ	39.5	56.8	3.7	「2」 21.1 % , 「3」 22.0 % , 「4」 13.7 %
	リ	37.4	59.2	3.4	「1」 18.0 % , 「2」 24.4 % , 「3」 16.8 %

【考察】大問7の正答率は47.1%（昨年度は38.8%）で昨年度を上回っている。

ある短編小説からの抜粋である。出題された部分は小さな村の教師ゴードンの紹介から始まり、ある夜学校に本を探しにいくと、そこにはないはずのピアノで練習をしている初対面の少年と出会うというスリリングな展開になっている。

前半3問の正答率は比較的高く、状況設定がある程度正確に読み取れていることが伺える。一方、後半2問は、ゴードンや少年の心の動きや言葉の意味を正確に読み取れておらず、正答率が低かった。

題材はオックスフォードから出版され、英語学習者向けにリライトされたものであり、読み応えのある英文である。このような素材を積極的に使い、生徒の関心・意欲を高めるとともに、英文を深く味わう力を身に付けさせたいものである。

### 3 指導上の改善

#### (1) 全体的な傾向

各問題とも、理解力、表現力、思考力を重視しながら、英語によるコミュニケーションを図るために必要な基礎的・基本的事項の定着をみようとした。

平成17年度の全体の正答率は57.8%であり、昨年度の全体の正答率(50.5%)を7.3%上回る結果であった。特に、昨年度より正答率が上昇した問題は、大問1・2・3(リスニング問題)と大問7(物語文)である。リスニング問題全体の正答率は71.7%(昨年度は48.3%)と、23.4%上昇している。また、大問7の物語文の正答率は47.1%(昨年度は38.8%)と、8.3%上昇している。

しかし、正答率がすべての設問において60%を超えることが期待されるが、実際に正答率が60%を超えた設問が40問中16間であることから、全体的にみると、現高校1年生の「英語I」における基礎的・基本的事項の定着度は、満足できるところまで達していないと考えられる。

#### (2) 理解力

理解力には、音声による理解力(聞く力)と文字による理解力(読む力)がある。

聞き取りについては、生徒が理解できる英語を聞かせる機会を多く用意することにより、聞くことへの垣根を低くし、自信を付けさせるため、教師が英語で授業を行うことが最も効果的である。また、聞き取る力を伸張させるためには、目的を持ったリスニングを多く経験させることも効果的である。

読み取りについては、平易な説明文の概要を読み取る力はおおむね身に付いていると言える。しかし、語彙力不足に加え、小説や物語文を読むことや英問英答の形式に慣れ親しんでいないことから、登場人物の心の動きを把握し、適切に回答する力が不足している。

読む力は読むことをとおして養われる。概略を把握するためのスキミング(skimming)、必要な情報を選び出すためのスキヤニング(scanning)、英文の内容と言語的表現を深く詳細に分析しながら読むための精読(intensive reading)など、異なった

方法を活用して指導するとともに、教室外では多読 (extensive reading) を奨励したい。

### (3) 表現力

表現力には、音声による表現力 (話す力) と文字による表現力 (書く力) がある。本調査では話す力は把握できないため、書く力について語句整序問題の結果から述べる。正答率の平均が 58.7% (昨年度は 59.8%) であり、英文を構成する力や表現力の基礎はある程度身に付いているが、不十分である。

「書くこと」の指導については、英語 I における「書くこと」の時間を確保するとともに、オーラル・コミュニケーション I の時間では、聞くこと及び話すことの指導の効果を高めるために、「書くこと」とも有機的に関連付けた活動を行うことが求められる。また、これまでの伝統的な「結果重視のライティング指導 (product approach to writing)」とともに、「過程重視のライティング指導 (process approach to writing)」も取り入れることで、生徒の文字による表現力をバランスよく伸張させることが必要である。

### (4) 語彙指導

「日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。」という学習指導要領の英語 I の目標を達成するためには、語彙力は非常に重要である。語彙指導は、語彙の導入と語彙の練習に分けられるが、意図的語彙学習 (intentional vocabulary learning) の機会を、授業に計画的に組み込む必要がある。また、語彙の学習では、個々の単語を切り離して学習するよりも、関連する語をまとめて学習すること等により、効果的に語彙力を向上させたい。また、文脈から意味を推測する (guessing meaning from context) 方法や語彙の学習方略 (learning strategy) を教えることなどにより、生徒の学習者としての自律性を促すことも必要である。

### (5) 基礎的・基本的な文法・語法や慣用表現

正答率が 49.5% (昨年度は 47.0%) と若干上昇しているものの、定着が不十分である。生徒の実態に合わせて、練習問題等の基礎トレーニングを繰り返すとともに、4 領域を有機的に関連付けた総合的なコミュニケーション活動を積み重ねることをとおして、基本語彙を含めた基本文法や口語表現の定着と習熟を図ることが必要である。

### (6) 中学校での指導内容との連結への配慮

中学校では音声によるコミュニケーションを重視した指導が行われていることを踏まえ、高等学校の初期においては、「聞くこと」及び「話すこと」の言語活動を多く取り入れ、生徒が抵抗なく高等学校での授業を受けられるようにするとともに、次第に「読むこと」及び「書くこと」の言語活動の比重を高めながら、4 領域にわたる実践的コミュニケーション能力を育成することが求められる。

## 学科群別正答率一覧

問 番	題 号	正 答	全 体 正答率(%)	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科
1	ア	3	70.6	77.9	54.2	65.2
	イ	1	65.8	73.1	48.8	62.5
	ウ	4	34.2	38.0	25.6	32.0
2	エ	3	95.1	96.5	91.6	94.8
	オ	4	86.5	89.0	80.9	85.6
	カ	2	80.0	84.9	68.7	77.4
3	キ	4	77.6	85.3	60.6	74.0
	ク	2	70.1	76.7	54.8	67.5
	ケ	1	79.8	84.7	67.7	79.6
	コ	3	57.2	66.1	36.2	53.9
4	サ	3	43.4	50.6	26.2	41.9
	シ	2	47.2	54.1	30.0	48.9
	ス	1	42.8	45.4	36.5	42.5
	セ	4	57.6	61.4	47.4	59.6
	ソ	4	52.7	59.0	38.1	50.6
	タ	1	22.1	21.7	23.9	19.0
	チ	3	68.9	78.6	46.8	63.2
	ツ	2	35.5	39.9	24.1	37.2
	テ	2	78.6	85.3	64.2	72.0
	ト	3	36.0	40.9	24.4	35.2
	ナ	4	58.7	68.5	36.2	54.3
	ニ	3	47.2	51.7	35.4	49.3
	ヌ	1	62.3	70.6	43.1	59.0
	ネ	2	56.8	65.1	37.9	52.2
ノ	4	32.2	35.4	24.7	31.8	
5	ハ	1	56.4	66.8	32.2	51.7
	ヒ	4	69.2	77.5	50.6	63.5
	フ	1	42.8	48.0	29.9	43.6
	ヘ	2	51.0	58.1	33.4	51.7
	ホ	4	74.0	83.8	51.3	69.3
6	マ	4	75.7	83.9	57.6	70.0
	ミ	3	48.2	57.3	27.0	45.3
	ム	3	52.5	55.2	45.0	55.6
	メ	1	80.7	86.9	66.2	79.2
	モ	2	66.6	74.1	48.9	63.9
7	ヤ	2	55.0	62.3	37.3	54.8
	ユ	1	54.8	61.8	38.6	52.0
	ヨ	3	48.7	54.7	33.5	50.2
	ラ	1	39.5	44.1	27.5	41.6
	リ	4	37.4	42.5	24.3	39.5

# 平成17年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査結果

※印は平成16年度の質問内容を一部変更したものの

Q1 進路について、現在最も強く希望しているのは次のうちのどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
18.4	36.7	44.1	21.9	22.8	31.8	30.6	① 4年制国公立大学
9.1	12.5	12.4	6.5	7.4	10.1	9.8	② 4年制私立大学
4.0	3.8	3.6	4.8	4.0	4.0	3.9	③ 短期大学
20.4	15.2	14.1	24.7	21.5	18.3	19.1	④ 専修学校・各種学校
22.7	13.8	9.3	20.6	19.6	15.7	15.4	⑤ 民間就職
4.5	2.9	2.4	5.2	4.9	3.7	3.9	⑥ 公務員就職
0.4	0.4	0.3	0.3	0.6	0.4	0.3	⑦ 家業
16.6	11.5	11.5	13.4	15.7	13.1	14.8	⑧ 未定
3.6	2.0	1.8	1.9	2.1	2.1	1.9	⑨ その他
0.2	1.1	0.6	0.9	1.4	0.8	0.3	⑩ 記入ミス・無答

①～④までを含めた進学希望者は64.2%と昨年度より0.8ポイント高くなっている。そのうちの約7割が4年制大学・短大への進学希望者である。4年制大学・短大への進学希望者（①～③まで）は45.9%と、前年度から0.6ポイント増加した昨年度より、さらに1.6ポイント高くなっており、年々増加傾向にある。⑤～⑦の就職希望者は19.8%と昨年度より0.2ポイント増加した。⑧の未定と⑨のその他を選択した者は合わせて15.2%であり昨年度より1.5ポイント低くなっているものの、さらなる進路意識の向上とそのためへの指導が望まれる。

Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
48.4	50.6	52.4	50.1	50.4	50.8	49.7	① 卒業までに絶対達成しようと思っている。
14.0	16.4	15.8	16.3	15.0	15.7	15.4	② 達成するまで、卒業後1、2年かかってもかまわないと思っている。
15.6	12.9	13.7	14.0	12.9	13.7	13.0	③ 卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
13.9	13.0	12.3	11.7	14.8	13.0	14.7	④ 何とかなるだろうと思っている。
7.4	6.0	5.0	7.3	6.0	6.1	7.1	⑤ あまり考えないようにしている。
0.7	1.0	0.7	0.6	0.9	0.7	0.1	⑥ 記入ミス・無答

進路希望の達成に向けて、卒業までに絶対達成しようと考えている者が約半数に上り、卒業後1、2年かかっても達成したいという者を加えた、進路に強い意欲を示している者全体の数は昨年度より1.4ポイント増加し66.5%を占める。一方で④⑤のように進路について安易に考えている者が19.1%おり、学習等に意欲的に取り組み、学校生活を有意義に送らせるためにも、進路希望達成に向けて適切にアドバイスし、励ましていくことが大切であると思われる。

Q3 ふだんどんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
11.0	12.1	12.3	11.6	11.2	11.8	10.9	① 分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
13.6	12.2	11.4	11.9	11.8	12.0	10.4	② 多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
11.3	11.2	12.9	11.0	9.9	11.5	8.8	③ 入学試験や就職試験に備えたい。
1.1	0.9	0.7	0.7	0.6	0.8	0.8	④ 親や先生にほめられたい。
31.8	34.2	33.6	33.9	34.6	33.7	43.3	⑤ 成績を上げたい。
3.4	3.4	3.3	3.1	3.6	3.3	2.6	⑥ 先生や家族に言われるから勉強している。
23.9	20.8	21.7	23.6	23.8	22.5	19.9	⑦ 特に考えていない。
3.0	3.6	2.6	2.8	3.2	3.0	3.2	⑧ その他
1.0	1.5	1.6	1.5	1.4	1.5	0.1	⑨ 記入ミス・無答

成績の向上を意識して勉強している者が33.7%と割合が高いが、昨年度より、9.6ポイント減少しており、その分①②③を合わせた数が5.2ポイント増加し35.3%になっている。これは、単に成績を上げるためのみならず学習に目的をもって取り組んでいる者の増加をうかがわせる。一方、⑦のように特に考えがなく勉強している者が約20%に上り、⑥を加えると25.8%と、ほぼ4人に1人が消極的な気持ちで学習しており、学習への興味・関心が学力向上の鍵となっていることから、学習への動機付けが必要である。

Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
4.7	5.8	7.3	5.3	5.5	6.0	6.1	① ほとんどの授業がよく理解できる。
27.4	33.0	33.1	28.4	31.1	31.2	32.8	② 理解できる授業の方が多い。
49.1	43.6	41.7	46.4	45.4	44.5	44.6	③ 理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
14.2	12.9	13.0	14.4	12.8	13.3	13.3	④ 理解できない授業の方が多い。
3.8	3.1	2.9	3.5	3.6	3.3	3.1	⑤ ほとんどの授業が理解できない。
0.9	1.6	2.0	2.0	1.6	1.7	0.1	⑥ 記入ミス・無答

だいたい理解できると回答した者は①と②を合わせて37.2%、あまり理解できないと回答した者は④と⑤を合わせて16.6%である。昨年と比較して①と②を合わせた「理解できる」が1.7ポイントの低下、④と⑤を合わせた「理解できない」が0.2ポイントの増加となっている。半々と回答した者が44.5%、理解できないと回答した者が④と⑤を合わせて16.6%おり、③④⑤を合わせると過半数にもなることから、学校においては「分かる授業」に向けての授業改善が強く望まれる。

Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
48.9	56.1	52.4	47.9	54.2	52.3	33.7	① 自分で調べる。
33.2	33.1	30.3	33.2	33.4	32.3	22.8	② 学校の先生に質問する。
67.9	69.4	64.7	71.4	71.7	68.6	58.6	③ 友達に聞く。
15.9	17.9	15.5	15.6	14.7	15.9	8.4	④ 家族に聞く。
9.2	14.6	12.6	10.0	10.7	11.8	8.7	⑤ 塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
24.9	23.7	21.5	25.0	22.2	23.2	15.6	⑥ そのままにしておく。
3.5	3.4	3.5	3.7	2.9	3.4	2.1	⑦ その他

①②③は主に学校内で解決を図るものであるが、そのうち一番多いのが「友達同士で解決を図る」場合で、ほぼ7割に近い。次いで「自分で調べる」が52.3%。それに対して「学校の先生に質問する」は3番目に多いとはいいながら、32.3%と低い割合である。「家族に聞く」「塾・予備校や家庭教師の先生に質問する」など学校外で解決を図る者が、それぞれ15.9%、11.8%いる一方、そのまま放っておく者が23.2%と、ほぼ4人に1人が分からないままに済ませている。

Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	得意教科
22.9	17.2	19.2	21.0	18.8	19.5	18.5	① 国語
7.7	10.5	8.5	8.9	9.1	9.0	9.5	② 地理歴史
2.7	2.9	4.4	3.7	3.4	3.6	4.3	③ 公民
18.4	21.8	21.3	20.9	20.5	20.9	19.7	④ 数学
12.4	13.2	11.2	11.0	11.4	11.8	13.2	⑤ 理科
13.8	17.5	17.5	13.1	15.6	15.9	15.8	⑥ 英語
10.7	6.7	6.8	8.0	8.3	7.7	7.5	⑦ 専門教科
10.7	8.7	10.3	12.3	11.6	10.6	11.0	⑧ その他
0.7	1.5	0.9	1.0	1.4	1.1	0.5	⑨ 記入ミス・無答

数学、国語、英語、理科、地理歴史の順で得意と感じており、昨年度と同じ順番となっている。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	不得意教科
7.1	12.0	12.4	8.6	9.9	10.6	10.8	① 国語
18.8	14.1	12.9	9.0	11.4	12.7	11.9	② 地理歴史
2.5	2.4	3.2	2.4	2.8	2.7	3.1	③ 公民
31.0	28.2	29.2	29.7	29.6	29.4	30.8	④ 数学
9.4	9.2	9.9	11.9	12.5	10.5	10.2	⑤ 理科
25.9	26.7	26.5	32.0	25.7	27.4	26.9	⑥ 英語
3.6	3.7	2.4	2.8	3.2	3.0	3.3	⑦ 専門教科
1.6	1.8	2.3	2.3	3.1	2.3	2.5	⑧ その他
1.0	1.9	1.1	1.3	1.8	1.4	0.5	⑨ 記入ミス・無答

数学、英語、地理歴史、国語、理科の順で不得意と感じている。昨年度と同様に、数学や英語を得意と感じている者が多い反面、不得意と感じている者も多い。数学と理科における得意、不得意を対比すると、不得意と感じている者の方が多く、数学で8.5%、英語で11.5%、得意と感じている者を上回っている。興味・関心を高める指導・分かる授業の工夫が求められている。

Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
13.9	19.2	24.8	13.6	8.4	17.5	13.7	① ほとんど毎日出ている。
30.8	35.6	34.2	31.8	29.0	32.8	30.6	② 週に2~3回出ている。
30.6	24.7	28.8	38.1	35.1	30.9	33.4	③ 週に1回くらい出ている。
23.8	19.5	11.1	15.5	26.7	17.8	22.2	④ ほとんど出ていない。
1.0	0.9	1.1	0.9	0.8	1.0	0.1	⑤ 記入ミス・無答

①~③を合わせて、週当たり何らかの宿題・課題が出される割合が81.2%となっており、昨年度より3.5%上昇した。ほとんど毎日宿題が出される場合は、17.5%と3.8ポイント上昇している。一方、ほとんど宿題が出されない割合は17.8%に上っており、昨年度より、4.4ポイント下がったものの、さらに家庭学習を支援する取り組みが期待される。

Q8 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
36.3	32.9	32.7	40.0	35.9	35.1	35.7	① 基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
5.8	6.7	7.5	4.2	5.1	6.1	6.5	② 発展的な内容まで教えてくれる授業
39.0	42.5	41.7	36.5	37.0	39.8	38.1	③ 興味や関心ももてるような授業
11.6	12.1	12.6	12.4	13.6	12.5	12.7	④ 進路希望達成につながる授業
6.9	5.2	4.9	6.3	7.7	5.9	6.6	⑤ 資格取得につながる授業
0.3	0.6	0.7	0.6	0.6	0.6	0.4	⑥ 記入ミス・無答

昨年度と同様に、興味関心ももてるような授業を期待する者が一番多く、次いで基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業を望んでいる。学校においてはこれらの期待に応えることができるような授業改善が期待されている。



Q9 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、家庭学習(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)をどの程度していますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16
39.2	37.5	31.3	38.7	41.7	36.7	38.3
11.5	13.1	13.1	12.8	11.4	12.6	12.3
13.8	14.6	17.0	16.3	15.1	15.7	15.4
19.7	20.1	23.3	21.0	18.9	21.0	20.4
11.3	11.4	11.2	8.1	9.3	10.4	10.0
3.0	2.5	2.7	2.1	2.4	2.5	2.3
0.8	0.3	0.5	0.3	0.6	0.5	0.6
0.4	0.3	0.3	0.4	0.4	0.3	0.5
0.1	0.3	0.6	0.4	0.3	0.4	0.2

- ① 全く、またはほとんどしない。
- ② 30分より少ない。
- ③ 30分～
- ④ 1時間～
- ⑤ 2時間～
- ⑥ 3時間～
- ⑦ 4時間～
- ⑧ 5時間以上
- ⑨ 記入ミス・無答

昨年度より1.6ポイント低下したものの、平日に家庭学習をしない者が36.7%に上る。これに30分以内の者を含めると49.3%になる。また、1時間以内の者を含めると65.0%で、約3分の2になる。2時間以上行っている者は13.7%にすぎない。前年度と比較した全体的な傾向としては、全く家庭学習をしない者の割合が少し減少し、④から⑧までの家庭学習をしている割合がやや増加している。

Q10 休日に、家庭学習をどの程度していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16
38.5	34.6	27.6	38.9	41.4	34.8	38.2
10.4	10.7	10.1	10.8	10.8	10.5	10.8
10.0	10.4	10.6	12.0	10.4	10.7	11.2
16.4	16.2	18.2	17.1	15.8	17.0	16.9
13.6	14.0	16.5	12.5	11.5	14.0	12.4
7.0	7.7	9.5	5.1	5.8	7.4	6.1
2.1	3.6	3.7	2.0	2.1	2.9	2.1
1.0	1.5	1.9	0.7	1.2	1.4	1.2
0.4	0.7	0.9	0.2	0.4	0.6	0.6
0.4	0.4	0.6	0.3	0.4	0.4	0.4
0.6	0.6	1.0	0.6	0.8	0.8	0.1

- ① 全く、またはほとんどしない。
- ② 30分より少ない。
- ③ 30分～
- ④ 1時間～
- ⑤ 2時間～
- ⑥ 3時間～
- ⑦ 4時間～
- ⑧ 5時間～
- ⑨ 6時間～
- ⑩ 7時間以上
- ⑪ 記入ミス・無答

休日に家庭学習をしない者が昨年度より3.4ポイント低下し、34.8%と、平日より低い割合となっている。これに30分以内の者を含めると45.3%になる。この数字は昨年度より3.7ポイント低下した。また、1時間以内の者を含めると56.0%で昨年度より4.2ポイント低下し、やはり平日より低い割合となっている。一方、2時間以上学習している者は26.7%で昨年度より3.9ポイント、今年度平日より13.0ポイント高くなっている。

Q11 家庭学習のしかたに、最も近いものはどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16
12.1	13.4	15.6	8.8	11.9	12.8	11.6
5.4	4.3	4.3	4.1	4.2	4.3	4.5
6.2	6.0	7.6	6.7	5.9	6.6	6.7
33.5	37.9	33.0	36.0	33.6	34.8	33.9
5.3	3.9	5.1	4.7	3.2	4.4	3.9
6.7	8.4	7.0	8.6	9.9	8.1	9.3
1.4	1.8	1.6	2.1	1.8	1.8	1.9
14.4	12.4	13.7	13.9	14.7	13.7	14.6
13.3	10.4	11.0	13.4	13.3	12.0	12.4
1.5	1.0	0.7	1.3	1.3	1.0	1.1
1.7	1.4	1.1	1.6	1.6	1.4	0.1

- ① ほぼ毎日している。
- ② 主に平日にしている。
- ③ 主に休日にしている。 ※
- ④ 主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
- ⑤ 主に宿題・課題のあるときにしている。
- ⑥ 主に定期考査前にしている。
- ⑦ 主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
- ⑧ 気が向いたときにしている。
- ⑨ 家庭学習はほとんどしない。
- ⑩ その他
- ⑪ 記入ミス・無答

主に、宿題・課題がある時や定期考査時にしか家庭学習を行わない者がほぼ半数の47.3%に上る。ほぼ毎日家庭学習を行っている者は12.8%のみで、①と②を合わせても17.1%であることから、約8割の者が家庭学習の習慣が身に付いていないと考えられる。ちなみに昨年度は①が11.6%、①と②を合わせて16.1%だったので、今年度若干向上している。⑧⑨についても昨年度よりそれぞれ0.9ポイント、0.4ポイント低下している。家庭や学校が連携を密にし、家庭学習を推進していくことが期待されている。

Q12 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16
5.8	5.0	3.1	6.4	5.1	4.8	5.3
4.9	5.6	3.6	5.5	4.8	4.7	5.2
1.1	0.8	1.5	1.9	2.2	1.5	1.5
30.3	44.3	39.0	33.1	29.6	36.5	36.5
6.1	5.0	4.5	6.3	5.7	5.3	5.4
21.2	20.5	30.4	24.6	26.8	25.5	25.5
17.6	9.3	7.9	9.5	12.3	10.3	9.2
11.0	8.0	8.5	10.7	11.8	9.6	11.0
2.1	1.6	1.5	2.0	1.9	1.8	0.4

- ① 国語
- ② 地理歴史
- ③ 公民
- ④ 数学
- ⑤ 理科
- ⑥ 英語
- ⑦ 専門教科
- ⑧ その他
- ⑨ 記入ミス・無答

昨年度と同様に数学と英語に力を入れて取り組んでいる割合が高い。

Q13 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
16.9	14.2	14.4	17.2	15.1	15.3	14.1	① 家庭学習の方法が分からない。
21.1	27.3	28.2	25.2	24.3	26.0	26.3	② 家庭学習に集中できない。
15.2	13.3	12.8	15.0	14.8	13.9	14.0	③ 学習の計画を立てても長続きしない。
20.0	22.8	22.0	19.1	18.9	20.9	21.0	④ 家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.1	4.7	4.8	5.1	6.3	5.2	5.6	⑤ 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
3.5	3.5	3.9	3.3	2.8	3.5	3.8	⑥ その他
16.1	13.3	12.9	14.0	16.9	14.2	15.0	⑦ 特に悩みはない。
1.0	1.0	1.0	1.1	1.0	1.0	0.2	⑧ 記入ミス・無答

特に悩みのない者は14.2%のみで、86%の者が何らかの問題を抱えていることがわかる。中でも、家庭学習に集中できない者が26.0%、家庭学習と部活動の両立に悩んでいる者が20.9%と割合が高い。家庭学習に集中できる環境づくりが期待されている。また、①③⑤は関連があり、これらを合わせると34.4%になる。学習カウンセリングや生活調査等でそれぞれの生徒の実態を把握し問題点の改善に努め、学習方法を具体的に指導する必要がある。

Q14 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
5.1	6.1	7.0	4.1	4.3	5.6	4.9	① 家庭学習
29.1	29.5	27.0	28.9	31.0	28.8	31.4	② テレビやビデオ
6.5	4.4	3.5	4.6	5.1	4.5	5.3	③ ゲーム
19.1	15.5	14.4	20.4	17.9	16.9	14.4	④ 電話やメール
3.4	3.0	3.9	4.6	3.9	3.8	4.0	⑤ 読書
20.9	22.8	23.6	21.7	20.9	22.3	21.5	⑥ 自分の趣味
3.3	4.1	3.5	3.3	2.9	3.5	3.6	⑦ 家族との会話
1.2	0.9	1.5	1.0	1.9	1.3	1.3	⑧ 手伝い
9.2	11.9	13.4	9.7	10.3	11.4	13.1	⑨ その他
2.1	1.8	2.1	1.7	1.9	1.9	0.5	⑩ 記入ミス・無答

テレビやビデオを見ている者が28.8%と最も多い。次いで趣味に時間をかけている者が22.3%、3番目が電話やメールの16.9%となっている。ゲームは少なく4.5%。Q13の「家庭学習に集中できない」理由の一端を窺うことができる。昨年度と比較して、割合が増えたのは、①「家庭学習」④「電話やメール」⑥「自分の趣味」で、それぞれ0.7ポイント、2.5ポイント、0.8ポイント増加した。逆に割合が減ったのは、②「テレビやビデオ」③「ゲーム」⑤「読書」⑦「家族との会話」である。

Q15 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
4.5	5.3	5.5	5.1	3.8	5.0	4.4	① 全く、またはほとんど見ない。
3.5	4.9	5.8	3.9	3.8	4.6	4.5	② 30分より少ない。
6.2	8.8	9.7	7.0	6.6	8.1	8.4	③ 30分～
19.7	22.9	24.2	18.5	19.4	21.5	20.7	④ 1時間～
23.3	25.1	25.8	24.5	24.8	24.9	25.1	⑤ 2時間～
21.6	17.1	16.7	21.2	20.3	18.8	18.5	⑥ 3時間～
10.7	9.0	7.0	11.5	10.4	9.3	10.0	⑦ 4時間～
9.6	6.0	4.4	7.4	10.0	6.9	8.0	⑧ 5時間以上
0.9	0.8	0.9	0.9	1.0	0.9	0.4	⑨ 記入ミス・無答

①と②あわせて9.6%。2時間～が24.9%と最も高く、次いで1時間～が21.5%となっている。3時間以上見ている者は35.0%。4時間以上見ている者は16.2%となっており、約6人に1人は4時間以上見ていることになる。このことから、テレビやビデオの視聴が「家庭学習に集中できない」理由の一つとなっていると考えられる。なお昨年度の約153分からは5分減少している。

Q16 平日に、だいたいどのくらいゲームをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
60.9	65.6	67.5	61.9	61.1	64.2	62.4	① 全く、またはほとんどしない。
6.4	7.7	8.0	7.5	7.5	7.6	7.3	② 30分より少ない。
8.0	8.2	7.6	7.6	7.0	7.7	7.7	③ 30分～
11.8	10.4	8.9	11.3	11.9	10.5	11.6	④ 1時間～
6.4	3.9	4.3	6.0	7.0	5.2	6.0	⑤ 2時間～
2.7	2.1	1.6	2.5	2.4	2.2	2.6	⑥ 3時間～
1.4	0.8	0.5	1.2	0.9	0.9	1.0	⑦ 4時間～
1.5	0.6	0.6	1.3	1.2	0.9	1.1	⑧ 5時間以上
0.8	0.6	0.9	0.7	1.0	0.8	0.3	⑨ 記入ミス・無答

テレビやビデオと比較して、平日にゲームを行っている者は少なく、①②を合わせて約7割となる。ゲームを行っている者については、1時間～2時間が10.5%と最も高い。3時間以上行っている者は4.0%である。

Q17 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
13.1	10.9	12.6	10.6	11.5	11.7	14.3	① 全く、またはほとんどしない。
19.3	22.2	23.1	16.6	19.2	20.5	23.6	② 30分より少ない。
13.6	16.2	15.8	15.3	13.9	15.2	16.3	③ 30分～
15.7	16.7	18.1	17.9	16.2	17.2	15.4	④ 1時間～
12.6	13.1	11.3	13.6	12.9	12.6	11.0	⑤ 2時間～
11.7	9.3	7.8	11.1	9.9	9.6	8.0	⑥ 3時間～
5.9	3.8	3.5	5.8	5.4	4.6	4.2	⑦ 4時間～
7.1	7.0	6.5	8.1	9.8	7.5	6.8	⑧ 5時間以上
1.0	0.8	1.1	1.3	1.3	1.1	0.4	⑨ 記入ミス・無答

30分以内の者が32.2%である一方、1時間を超える者が51.5%と多い。3時間以上時間を費やしている者は21.7%にもなり、「家庭学習に集中できない」一要因になっている。平日家庭で長時間時間を割いて行っているものが、テレビ・ビデオ・ゲームから電話・メールに移行しつつある傾向がうかがわれる。

Q18 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
54.8	61.2	57.9	48.8	56.3	56.3	55.7	① 全く、またはほとんどしない。
18.8	15.6	16.9	24.3	18.1	18.4	18.1	② 30分より少ない。
11.9	11.0	11.3	11.3	10.5	11.2	11.2	③ 30分～
7.6	6.7	7.5	8.2	8.3	7.6	8.4	④ 1時間～
3.4	2.7	3.1	3.3	3.8	3.2	3.8	⑤ 2時間～
1.8	1.5	1.6	1.9	1.3	1.6	1.3	⑥ 3時間～
0.4	0.4	0.4	0.6	0.6	0.5	0.6	⑦ 4時間～
0.8	0.3	0.5	0.6	0.5	0.5	0.6	⑧ 5時間以上
0.4	0.5	0.9	0.9	0.7	0.7	0.3	⑨ 記入ミス・無答

30分以内の者が74.7%と、平日の読書はあまり習慣化されていない。1時間以上読書する者は13.4%である。学校や家庭において読書を習慣付ける工夫が望まれる。

Q19 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
2.5	4.3	5.9	2.8	3.1	4.1	3.2	① 家庭学習
23.0	22.0	20.3	20.9	22.8	21.5	22.5	② テレビやビデオ
9.1	7.0	5.9	7.6	8.6	7.3	8.1	③ ゲーム
11.9	8.3	7.6	11.9	10.3	9.5	7.4	④ 電話やメール
2.8	1.9	2.5	2.9	2.9	2.5	2.6	⑤ 読書
26.1	32.3	31.8	30.0	28.8	30.4	29.7	⑥ 自分の趣味
2.4	2.9	2.2	2.5	1.4	2.3	2.5	⑦ 家族との対話
2.0	1.4	1.3	1.6	2.4	1.6	1.8	⑧ 手伝い
16.2	16.4	18.7	16.3	16.1	17.0	21.7	⑨ その他
4.0	3.6	3.9	3.5	3.6	3.7	0.5	⑩ 記入ミス・無答

休日になると、自分の趣味に時間をかけている者の比率が最も高く、次いでテレビやビデオの順になる。電話やメールの割合も平日に比較して低くなっている。

Q20 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
3.4	3.4	4.1	3.9	3.1	3.7	3.6	① 全く、またはほとんど見ない。
1.8	2.6	2.7	2.0	1.9	2.3	2.2	② 30分より少ない。
2.8	4.2	3.8	3.0	2.4	3.4	3.5	③ 30分～
8.0	10.8	12.7	8.8	8.1	10.2	9.8	④ 1時間～
14.5	18.5	20.0	15.3	16.4	17.5	17.6	⑤ 2時間～
19.8	18.6	20.7	18.9	19.0	19.5	18.6	⑥ 3時間～
15.8	15.4	13.7	16.2	14.6	14.9	15.2	⑦ 4時間～
14.7	12.2	10.7	13.5	13.4	12.4	12.4	⑧ 5時間～
6.3	5.8	4.4	7.6	7.7	6.1	6.5	⑨ 6時間～
12.2	7.6	6.2	10.0	12.4	8.9	10.1	⑩ 7時間以上
0.8	0.9	1.0	1.0	1.1	1.0	0.5	⑪ 記入ミス・無答

①と②合わせて6.0%。最も割合が高いのが3時間～の19.5%、次いで2時間～3時間の17.5%である。3時間以上見ている者が61.8%と平日よりも26.8%も多い。およそ11人に1人は7時間以上テレビやビデオを見ており、「家庭学習に集中できない」理由の一つになっていると考えられる。

Q21 休日に、だいたいどのくらいゲームをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
53.3	56.6	59.4	55.4	53.1	56.3	54.5	① 全く、またはほとんどしない。
5.3	5.8	6.4	5.4	5.6	5.8	5.8	② 30分より少ない。
5.2	5.2	5.4	5.1	4.6	5.2	5.3	③ 30分～
10.8	11.2	9.7	9.7	10.5	10.3	10.9	④ 1時間～
8.4	9.0	8.5	8.9	10.5	9.0	9.7	⑤ 2時間～
7.1	5.5	4.7	6.8	6.1	5.8	5.9	⑥ 3時間～
3.3	2.2	1.6	2.8	3.0	2.4	2.8	⑦ 4時間～
2.4	1.1	1.3	1.9	2.2	1.6	1.8	⑧ 5時間～
0.9	0.6	0.6	0.7	0.9	0.7	0.9	⑨ 6時間～
2.2	1.4	1.0	1.6	2.0	1.5	1.7	⑩ 7時間以上
1.2	1.3	1.5	1.6	1.5	1.4	0.7	⑪ 記入ミス・無答

平日と比較して時間が長くなっているものの、それほど多くの者が行っているわけではない。①②を合わせて62.1%。行っている者については、平日と同様1時間～が10.3%と最も高い。

Q22 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
11.8	10.2	11.8	9.4	10.5	10.8	13.3	① 全く、またはほとんどしない。
16.8	17.9	18.2	14.0	16.9	16.9	19.7	② 30分より少ない。
11.4	13.4	14.7	12.6	10.9	13.0	14.6	③ 30分～
15.2	16.5	16.3	15.6	14.9	15.9	15.0	④ 1時間～
10.6	12.1	12.4	12.6	12.2	12.1	11.6	⑤ 2時間～
10.4	10.0	8.8	11.6	9.1	9.8	8.4	⑥ 3時間～
7.2	6.0	5.3	7.3	6.3	6.2	4.9	⑦ 4時間～
6.3	4.9	4.3	5.5	6.3	5.2	4.4	⑧ 5時間～
2.8	1.8	1.7	2.5	2.4	2.1	2.0	⑨ 6時間～
6.3	5.0	5.1	7.3	8.8	6.2	5.6	⑩ 7時間以上
1.2	2.1	1.6	1.7	1.8	1.7	0.5	⑪ 記入ミス・無答

30分より少ない者が27.7%と平日よりやや減じている。1時間以上の者が57.5%と高くなり、3時間以上時間を費やしている者も29.5%と平日より7.8ポイント増えている。学校や家庭が連携して、家庭学習に集中できる環境づくりが期待されている。休日家庭で長時間時間を割いて行っているものが、テレビ・ビデオ・ゲームから電話・メールに移行しつつある傾向がうかがわれる。

Q23 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H16	
59.2	60.2	57.8	57.5	56.8	58.3	57.2	① 全く、またはほとんどしない。
13.4	12.3	12.1	13.2	13.2	12.7	13.1	② 30分より少ない。
8.1	9.1	9.8	8.7	9.2	9.1	9.7	③ 30分～
8.2	8.9	9.8	9.0	8.9	9.1	9.4	④ 1時間～
5.3	4.0	4.9	5.4	4.6	4.8	5.1	⑤ 2時間～
2.2	2.2	2.3	2.1	2.7	2.3	2.7	⑥ 3時間～
1.1	1.0	0.9	1.4	1.2	1.1	1.0	⑦ 4時間～
0.8	0.5	0.7	1.0	0.8	0.7	0.7	⑧ 5時間～
0.5	0.2	0.2	0.2	0.5	0.3	0.2	⑨ 6時間～
0.7	0.5	0.4	0.7	0.8	0.6	0.6	⑩ 7時間以上
0.6	1.3	1.1	1.0	1.4	1.1	0.3	⑪ 記入ミス・無答

30分以内の者が71.0%と平日同様高い割合になっている。1時間以上の者は18.9%と平日より5.5ポイント増えているものの、読書の習慣が身に付いているとはいえない。学校や家庭において読書を習慣付ける工夫が望まれる。

まとめ

進路希望を見てみると、45.9%と高校1年生の約半数の生徒が、大学や短大への進学を希望しており、専修学校・各種学校を加えた進学希望者は3分の2近くの64.2%になる。進路希望の達成についても、卒業までに絶対達成しようと考えている生徒が約半数いる。ふだんの勉強についても、「まずは成績をあげたい」の33.3%に「社会に出て役立つ力を身につけたい」「分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい」「入学試験や就職試験に備えたい」など前向きに学習を考えている生徒も多くこれらを合わせると69.0%と意識は高いものの、家庭学習の時間が1時間未満の生徒が平日で65.0%、休日で56.0%に上り、行動が伴っていないのが現実である。

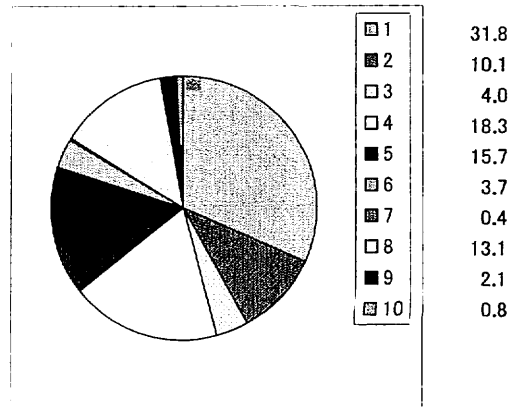
家庭学習をする上で悩んでいることとして、「家庭学習に集中できない」と回答した生徒が26.0%と最も多く、その要因としてテレビやビデオ、自分の趣味、電話やメールに時間を割いていることがあげられる。ほとんどの授業が理解できる又は理解できる授業の方が多くと回答した生徒が37.2%であり、授業で分からないことがあった場合に友達に聞く生徒の68.6%を下回り、先生に聞く生徒は32.3%にとどまっている。「興味や関心がもてるような授業」を期待している生徒が39.8%、「基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業」を期待している生徒が35.1%いる。

以上から、今後の対策として、進路意識、学習意識の高まりを受けて家庭学習習慣づくりと学習に集中できる学習環境づくりをさらに推進し、家庭学習時間の増加と成績の向上に結びつけたい。それには、家庭と学校が協力しあいながら家庭学習を推進する一方、学校においては、分かる授業に向けた授業改善と基礎基本が身に付いていない生徒へのきめ細やかな対応が求められる。

(参考)「まとめ」に関する調査結果(抽出して再掲)

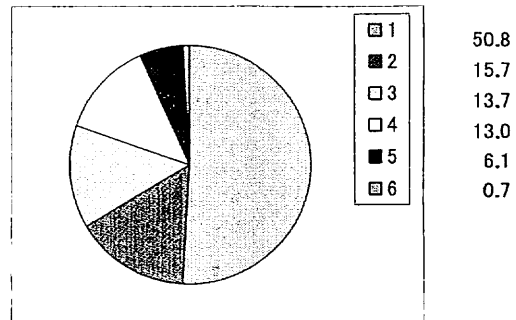
Q1 進路について、現在最も強く希望しているのは次のうちのどれですか。

- ① 4年制国立大学
- ② 4年制私立大学
- ③ 短期大学
- ④ 専修学校・各種学校
- ⑤ 民間就職
- ⑥ 公務員就職
- ⑦ 家業
- ⑧ 未定
- ⑨ その他
- ⑩ 記入ミス・無答



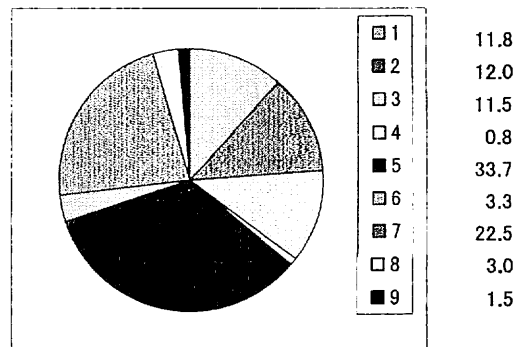
Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

- ① 卒業までに絶対達成しようと思っている。
- ② 達成するまで、卒業後1,2年かかってもかまわないと思っている。
- ③ 卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
- ④ 何とかかなるだろうと思っている。
- ⑤ あまり考えないようにしている。
- ⑥ 記入ミス・無答



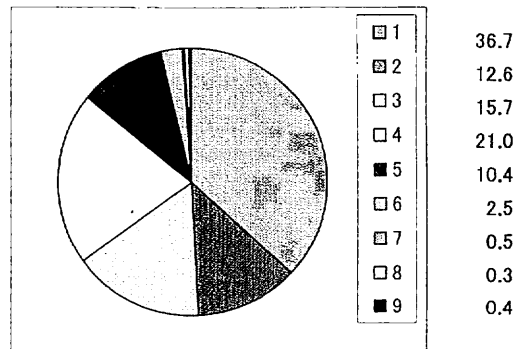
Q3 ふだんどんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

- ① 分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
- ② 多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
- ③ 入学試験や就職試験に備えたい。
- ④ 親や先生にほめられたい。
- ⑤ 成績を上げたい。
- ⑥ 先生や家族に言われるから勉強している。
- ⑦ 特に考えていない。
- ⑧ その他
- ⑨ 記入ミス・無答



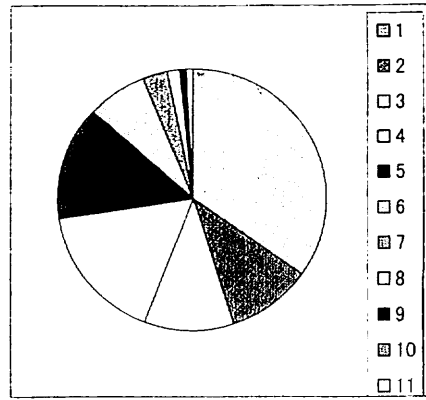
Q9 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、家庭学習(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)をどの程度していますか。

- ① 全く、またはほとんどしない。
- ② 30分より少ない。
- ③ 30分～
- ④ 1時間～
- ⑤ 2時間～
- ⑥ 3時間～
- ⑦ 4時間～
- ⑧ 5時間以上
- ⑨ 記入ミス・無答



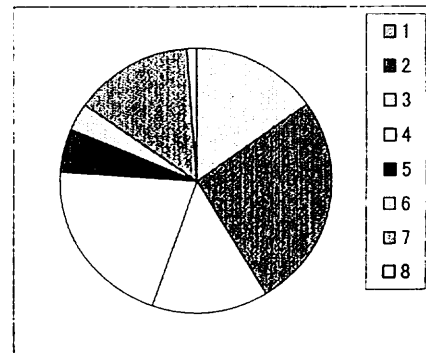
Q10 休日に、家庭学習をどの程度していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

- ① 全く、またはほとんどしない。
- ② 30分より少ない。
- ③ 30分～
- ④ 1時間～
- ⑤ 2時間～
- ⑥ 3時間～
- ⑦ 4時間～
- ⑧ 5時間～
- ⑨ 6時間～
- ⑩ 7時間以上
- ⑪ 記入ミス・無答



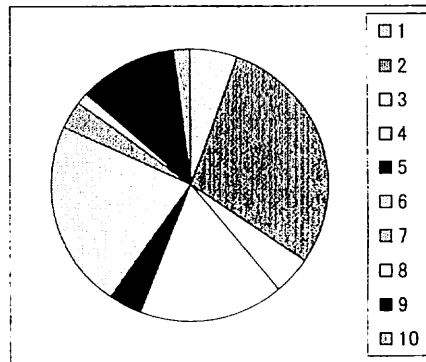
Q13 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

- ① 家庭学習の方法が分からない。
- ② 家庭学習に集中できない。
- ③ 学習の計画を立てても長続きしない。
- ④ 家庭学習と部活動の両立が難しい。
- ⑤ 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
- ⑥ その他
- ⑦ 特に悩みはない。
- ⑧ 記入ミス・無答



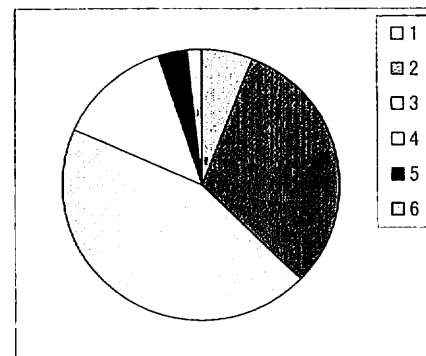
Q14 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

- ① 家庭学習
- ② テレビやビデオ
- ③ ゲーム
- ④ 電話やメール
- ⑤ 読書
- ⑥ 自分の趣味
- ⑦ 家族との対話
- ⑧ 手伝い
- ⑨ その他
- ⑩ 記入ミス・無答



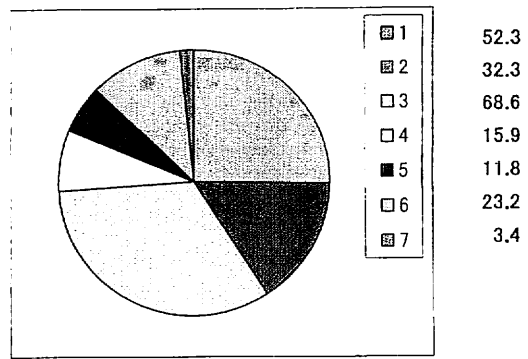
Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

- ① ほとんどの授業がよく理解できる。
- ② 理解できる授業の方が多い。
- ③ 理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
- ④ 理解できない授業の方が多い。
- ⑤ ほとんどの授業が理解できない。
- ⑥ 記入ミス・無答



Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

- ① 自分で調べる。
- ② 学校の先生に質問する。
- ③ 友達に聞く。
- ④ 家族に聞く。
- ⑤ 塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
- ⑥ そのままにしておく。
- ⑦ その他



Q8 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。

- ① 基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
- ② 発展的な内容まで教えてくれる授業
- ③ 興味や関心をもてるような授業
- ④ 進路希望達成につながる授業
- ⑤ 資格取得につながる授業
- ⑥ 記入ミス・無答

